



易しい文字で優しい指導を！

手島 良

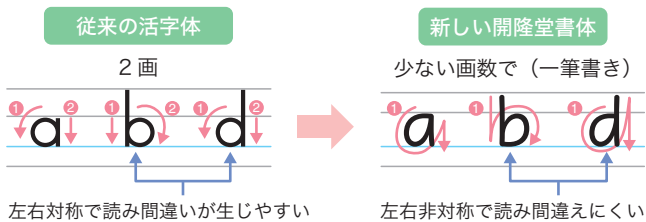
武蔵高等学校中学校教諭/
日本女子大学非常勤講師

日々、画数の多い漢字と格闘している小学生たちにとって、英語の文字は一見簡単そうに思えます。ところが、画数が少ないということと、書きやすいかどうか、また読みやすい文字が書けるかどうかは別問題です。

1 一筆書きを多く

文字を書いている途中で、紙から鉛筆の芯を離さずに書き終わることができれば便利です。ところが従来の活字体では、aはcと縦棒からなる2画でした。そのため、児童が書く文字では、cと縦棒が交差したり、逆に2つが離れてdがclのようになってしまったり、ということが避けられませんでした。そこで、字形を改め、涙滴形を使うことにしました。これにより、a, d, g, q, また、b, pが一筆書きで書けるようになり、読み間違いの少ない文字を書くことができるようになります。

また、活字体では2画あるいは3画だったh, n, r, u, mも、方向転換のときの勢いを利用して、リズムよく滑らかに一筆書きするのが得策です。

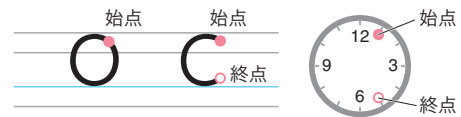


2 筆法の種類を少なく

同じ腕の動きで書ける字が多ければ、その仲間の文字の形は整えやすくなります。これは上で見た、小文字のa, d, g, qやb, pにとどまりません。

大文字のEは、縦棒を書いたあとで横棒を上から順に3本書くのではなく、Lから書き始めて、そのあとで横棒を上から2本書く筆順を提示しています。これにより、EはLの「類似形」ということがわかり、両者の字形も整いますし、腕の記憶の負担も減るはずですよ。

また、o, O, Qの書き始めは「時計の文字盤の1時」の位置となるように示しました。これはc, Cと同じ書き始めですし、a, d, g, qの書き始めにも近い位置です。これにより、「1時から始めて閉じればo, O, Q」、「5時で書き終わればc, C」といった指導が可能になります。ちなみに「1時」は、右利きの児童にとってo, O, Qの楕円が作りやすくなる書き始めの位置でもあります。



他にも、Tは「丁」、tは「十」と字形が似ているため、漢字の筆順でどうしても横棒を先に書きたくなります。けれども、英語の文字では（左側の）縦棒が最優先だということは徹底して指導したいと思います。大文字ではBDEFHKLMPRTU、小文字ではbfhijkmnpqrtuがこれに該当します。「十」の筆順で急いで書いたtやfが縦長のeに見えることがありますが、縦棒が先の筆順ならこれを避けることができます。

■ 筆法でまとめた指導を

実際に手書き文字を指導する際は、アルファベット順ではなく、英国で行われているように、筆法が共通する「文字族 (letter family)」（下図）ごとに書かせるのが重要です。

小文字：lit/ceo/adgqu/bp/rnhm/kvwxyz/s/f/j

大文字：ILEFTH/VWXYNMAKZ/CGOQU/BDPRJ/S

アルファベット順の指導では、反時計回りのaのあとに時計回りのb、そのあとには再び反時計回りのc...となっており、英語の文字特有の筆法を身につけることは困難でした。

英国の小学校における文字指導の成果を反映したJunior Sunshineで、効果的な指導をしていただけるものと確信しています。